

牧会祈祷

天の父なる神さま。復活節第三主日を迎え、御前に祈る時を与えられました。今なお家庭礼拝をおささげする時が続いています。主日礼拝の時間に再会したいと願っている兄弟姉妹を思い起しながら心を合わせて祈る時を与えられていますことを感謝いたします。離れていても信仰による一致によって歩めますようにお導きください。

礼拝堂に集まることができませんが復活の主と共に歩む日々、祈りを大切に生きることが出来ますように、新しい一週間をお導きください。世界中の試練の時、イスラエルの苦しみをつぶさに見て、叫びを聞いてくださり、御子イエス・キリストを遣わして下さったあなたが、共にいてくださること、何よりの安心です。主が最善の道を備えてくださることを信頼して祈り続けます。国境を越えて力を合わせ、一つとなつて力を

5月に向かって歩み出そうとしています。神さまが世界を癒し、対立の中に平和をお与えくださいますようにお祈りいたします。

家の中に留まることが何より大切な時です。不安の中にいる時も神さまを賛美する者としてください。今日も医療の最前線におられる方々が懸命に救命に努めておられます。心折れることなく支えられますようにお守りください。

本日も御言葉を聞きます。私たちの命の糧としてお導きください。

この祈り、主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

説 教

「美しい門の出来事」

藤田健太 伝道師

エルサレム神殿の「美しい門」と呼ばれる場所について、はっきりしたことはよく分かっていません。ヘロデ王が新しく建てた神殿の門は、高さおよそ25メートル、金や銀の装飾がふんだんに使われ、コリント様式の豪華な造りをしていたことが分かっています。歴史的に判明しているのはその程度です。いずれにせよ、エルサレム神殿の門が「美しい門」と呼ばれるのは、聖書のなかでも、本日のこの箇所だけです。

敢えて想像力をはたらかせて申し上げるなら、こんなことが言えるかもしれません。使徒言行録に収められた、本日のこの物語のゆえに、この門は「美しい門」と呼ばれるようになったのではないか。使徒たちによる「癒し」の物語を通して、この門ははじめて「美しい門」と呼ばれるに値する門となったのではないか。—そんなことを思い巡らしながら聞いてみると、本日の聖書のお話が、大変印象的なお話として聞こえてくるのです。

エルサレム神殿の門を「美しい門」とらしめた出来事は、「キリストの名による癒しの出来事」です。キリストによって癒された使徒たちによる癒しの出来事です。キリストによって癒された使徒たちが他者を癒す者へと変えられ、他者を癒した出来事です。

生まれながら足の不自由だったそのひとが、「ナザレの人イエス・キリストの名」によって立ち上がり、神を賛美し始めました。主イエス・キリストを賛美しながら、使徒たち

のあとに続き、神殿の門をくぐりました。「美しい門」は言わば、キリストの名による癒しの出来事を目撃した最初の証人となったわけでした。

一行が門をくぐると、神殿の中で他の参詣者たちが礼拝をささげていました。参詣者たちのなかには、門をくぐる前、足の不自由だったそのひとにいくらかの金銭を与えた人たちがいたと思います。生活困難な者に施しを与えることは、当時のユダヤ教で主流を占めたパリサイ派において、とりわけ敬虔な行いとして評価されました。足の不自由なそのひとに金銭を与え、パリサイ的な敬虔を示した参詣者たちもまた、キリストの名による癒しの出来事の証人となりました。

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。」一使徒がそう言って、そのひとに与えたのは、金や銀にまさる何かでした。参詣者たちがそのひとに与えることのできなかつた何かを、使徒はそのひとに与えました。それは「キリストの名による癒し」でした。かつてキリストによって救われ、癒された使徒は、今や「キリストの名」によって、他者を癒すことのできる者へと変えられました。「ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい！」一キリストの名による癒しこそ、私たちが他者に与えることのできる最大の施しです。

足の不自由なそのひとに向かって、「わたしたちを見なさい」と使徒は言います。「わたしを見なさい」と自信満々に言える人は、そんなに多くはないと思います。人に誇れるほど「美しく」もなく、人に誇れるほど「金」や「銀」を持ちません。それにも関わらず、使徒はそのひとに向かって、「わたしを見なさい」と言いました。「わたしを見なさい」というのは「キリストに癒していただいた、わたしを見なさい」ということです。もっと言えば、「わたしを通して、キリストを見なさい」ということです。さらに言えば、「キリストの名によって、あなたも癒されなさい」ということです。突き詰めて言えば、「キリストによって、あなたも他者を癒す者へと、変えられなさい」ということです。

するとその人は立ち上がり、使徒たちに続いて神様を讃えながら門をくぐりました。その光景を目の当たりにしたことで、参詣者たちもまた、キリストの名による癒しの出来事に加わりました。癒されたそのひとは、参詣者たちに、キリストの名による癒しを伝えました。キリストの名による癒しが、使徒からそのひとへ、そのひとから参詣者たちへと広がりました。主の癒しが人々に広まっていく光景に「美しさ」があります。旧約聖書のイザヤ書が次のように伝える通りです。「いかに美しいことか、山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。」神殿の門は、この出来事のゆえに「美しい門」と呼ばれるようになったのでした。

「ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。」一朝・昼・夜にささげる3度の祈りと、神殿への参詣は、使徒たちの日常の営みでした。「美しい」という言葉を使うのは、どこか気恥ずかしい印象があり、日常では、あまり使い勝手のよくない言葉と感じられてしまいます。しかし、キリスト者の日常には、「キリストの名による癒し」があり、その喜びが人々のもとに広がっていく「美しさ」があるとされます。わたしたち、キリスト者の日常とは本来「美しい」ものなのです。

現在、新型のウイルスの猛威のなか、日常の営みをおくることのできない日々が続いています。閉塞した日常の中に「美しさ」を見出すことのできない日々が続いています。しかし、ウイルスの猛威に怯える生活の中にも「キリストの名による癒し」があります。金や銀に換えることのできない「美しさ」も依然としてあります。

神殿で物乞いをしていたそのひとにとって、日常の中の「美しさ」はまったく予想外のものでした。パリサイ的な宗教理解のもとでは、そのひとは、自らの日常の中に「汚れ」を見出すほかなかったからです。キリストの名による「癒し」は、そのようなひとに与えられました。そしてその人を通して、より多くの人たちが、キリストの名による癒しに触れ、神を信じて歩む日々の「美しさ」に気づかされたのです。

目に見えないウイルスの侵攻を恐れる私たちの日常に、キリストの名による癒しが与えられます。「美しい門」での出来事は、キリストによって癒されたわたしたちが、他者を癒し、励ますことのできることを、それがわたしたち本来のあるべき姿であることを、わたしたちに向けて、はっきりと伝えてくれているのです。

〔祈祷〕天の父なる神様、御子イエス・キリストの復活を覚え、復活節第3主日の主日礼拝をお捧げすることが許されました。感謝いたします。新型コロナウイルスと戦う医師たち、各地域の指導者たち、人々の癒しを願うわたしたちを通して、あなたはキリストの御姿を世にあらわしてください。秩序ある生活をいとなみ、内面の健康を守り、隣人への配慮をおこなってゆくことができますように。わたしたちの毎日の生活の「美しさ」を保たせてください。復活の主を信じる信仰が、今日も私たちの心を満たしますように。

銀座教会の兄弟姉妹が主にあつて、一つの霊で結ばれ、一つの信仰に生きることができまうように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

祈 禱（各自、自由にお祈りください）

祈禱課題 病の中で苦しむ方々、医療従事者のために
世界の教会が主イエスの復活の喜びに満たされますように
新年度の銀座教会の歩みのために

讃美歌 508 主よ ひにひにましたまえ
頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。 アーメン